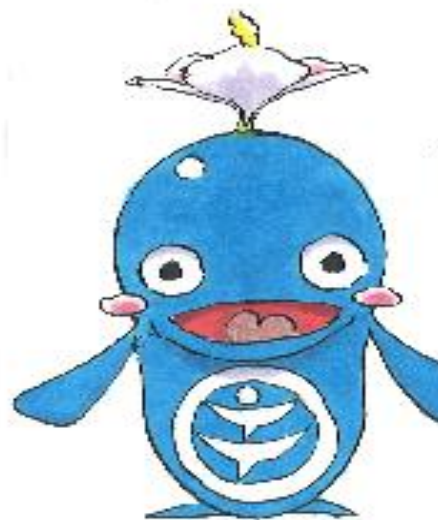


令和3年度 校内研究報告会



令和4年3月18日
栃木県立富屋特別支援学校

* 研究主題Aは弘済会指定研究学校助成金の交付を受けています

1 目的

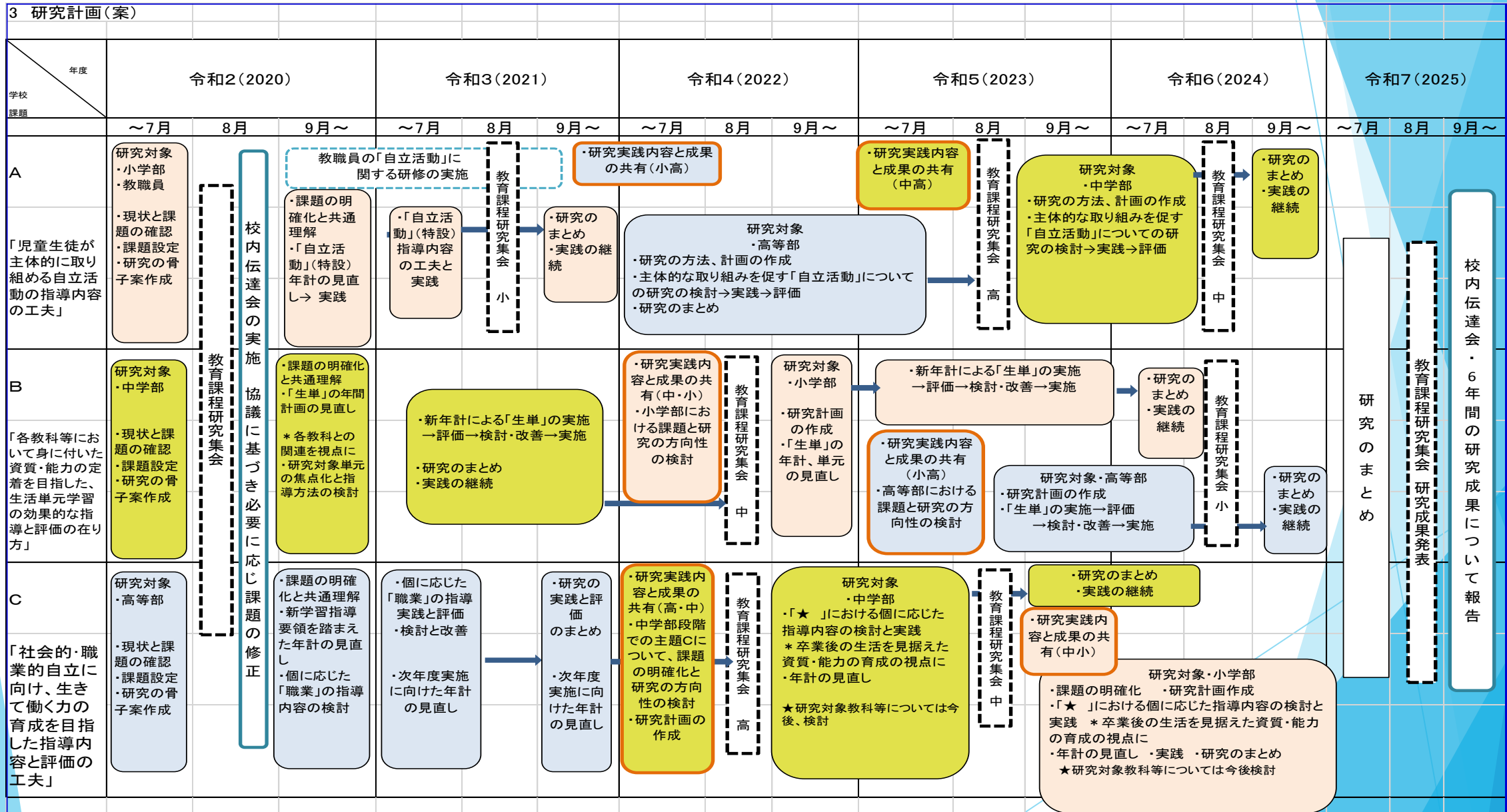
- ▶ 新学習指導要領の趣旨及び栃木県教育振興基本計画の基本理念に則り、**生きる力を育む教育を推進するため**、研究主題に基づき、教育課程上の課題や成果について協議することにより、**教育課程の改善・充実に資する。**
- ▶ **児童生徒の自信と意欲を育てる指導の充実**を旨とし、研究主題に基づいた授業計画、実践、評価、改善に組織的に取り組む。

2 研究主題

A	自立活動の指導における子どもの <u>主体的な取り組みを促す</u> 効果的な指導と評価の在り方
B	各教科等を合わせた指導における、各教科の基礎的な知識・技能を確実に習得させるための <u>個に応じた</u> 効果的な指導と評価の在り方
C	社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を着実に育成するための <u>個に応じた</u> 効果的な指導と評価の在り方

3 研究計画

3 研究計画(案)



4 実践報告

【研究主題 A】小学部

学校課題

「児童生徒が主体的に取り組める
自立活動の指導の工夫」

(1) 研究の主な内容

①個別の教育支援計画様式2-1、2-2に関する研修

②特設「自立活動」（小学部）について

- ・新たな年間指導計画の作成と実践
- ・事例検討会における「児童の主体的な活動を促す指導内容と手立て」についての検討

(2) 昨年度の取り組み

【個別の教育支援計画の様式 2-1, 2-2 に関すること】

児童生徒の実態把握と

自立活動の中心的な課題の抽出

- ☆子どもは何に困っているか
- ☆複数のつまずきに共通する要因は何か
- ☆つまずいている中でもうまくいっているところに共通する「うまくいくための要件」は何か

全学年で 1 事例を取り上げ研修を実施、共通理解を図った

【小学部特設「自立活動」の見直し】

問題点の洗い出し

- ・ 個別指導の教室が確保できない

⇒ 「個別課題（教室内）」

＊ 教室内でそれぞれの児童は課題に取り組みつつ、
教師が 1 名に焦点をあてて指導する

- ・ 集団が大きいいため実態を同じくする小集団をつくることのできる

⇒ 「グループ別指導（実態別）」

指導形態を上記 2 つ（1 対 1 の割合）の柱とし、
「令和 3 年度自立活動年間指導計画」を作成

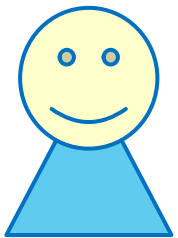
(3) 今年度の取り組み

【事例検討会の実施】

個別課題

グループ別指導

それぞれの指導形態で授業実践を行う



各学年 1 名 事例検討会

指導内容や児童の主体的な取り組みを促す工夫
について検討

* 2 事例については自立活動充実事業を兼ね、外部専門家より
助言をいただく

【実践事例】

対象児童： K. K（小1 女児）

【実態】

- ・ **人との関わりが好き**だが、緊張や恥ずかしさから**消極的になる**ことが多い。
- ・ **発語は不明瞭**だが、知っている言葉をつなげて話したり、簡単な身振りを表現したりして、**様々なことを伝えようとする**場面も見られる。

【ねらい】

- ・ 学校生活に慣れ、リラックスした状態で教師や友達とのやりとりを楽しむことができる。
- ・ サインやカード、言葉など自分なりの方法で要求を伝える経験を積む。
- ・ 口の体操や息吹き遊びなどを通して口唇機能を高めることができる。

【指導内容と主体性を引き出す工夫】

指導内容	主体性を引き出す工夫
①発語や発音を促す指導 ・舌や唇の運動（口の体操） ・呼気と吸気の練習（風車、吹きコマ、パネル倒し等）	・ 息を出すことが視覚的に捉えられるおもちゃを教材を使用し楽しみながら活動できるようにする。
②模型や絵本、カード等を使用した発語やサインでのやりとり ・ 食べ物イラストクイズ ・ 顔写真カードクイズ ・ お店屋さんごっこ ・ 絵本「おいしいおとなあに？」	・ 児童が好きな食べ物や友達を題材として取り上げる。 ・ ゲームやクイズ形式、ごっこ遊びなどで教師とのやりとり楽しみながら、サインや発語を引きだせるようにする。
	・ 自分で活動を選ぶ場面を設定する。

【実践の様子】

「お口のたいそう」



絵カードと鏡を見ながら舌を「べ～」

「だれかなクイズ」



息を吹くと友達の写真が出てくる

絵本をつかったやりとり
「おいしいおとなあに？」



うどん～

つるつる～
つるつる～

【児童の変容】

- ・ 息吹きや吹きゴマの活動を繰り返すことで、より長く息を吐き出せるようになった。
- ・ 顔写真クイズでは、誰が出てくるのかを楽しみにして、積極的に活動に取り組んでいた。友達や教師の名前を発音できるようになってきた。
- ・ 絵本を自分からめくり、繰り返し発声したりサインを出したりする様子が見られた。教師とのやりとりを楽しむ様子が見られた。
- ・ 自分で活動内容を選ぶことで、より意欲的に活動に取り組むようになった。

(4) 研究の成果

実態把握 (児童生徒の全体像を捉える)

- うまくいっているところ
- つまづいている中でもうまくいっているところ



自立活動の中心的な課題の抽出

適切な
ねらいの設定



指導内容
手立て



主体的な
児童生徒の取り組み
に結びつく

（４）研究の成果

事例検討会を通して見えてきた
「児童の主体的な活動を促す
指導内容と具体的な手立て」

興味関心に基づいた教材教具の工夫

個別の様式2-1で
○の項目（興味関心・得意なこと）
は何か？

教材教具や指導内容に結び付ける



ぼくの好きな
○○だ!!

なにかな～？
ワクワク♪

たのしそう！

やってみたい！

人と関わるの
だ～いすき♪

自己選択や気持ちを表出する場の設定



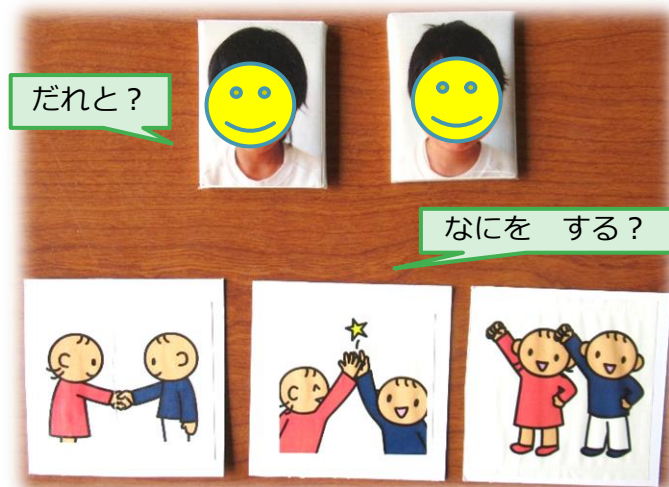
もう一回！

〇〇さんと
やりたいな

わたしは こっち
をやりたいな

もう一回やりたいな

今日の活動は
「〇〇〇〇」と思ったよ



受容的・共感的な関わり

子どもが分かりやすく達成感を持てる言葉掛け
「何が？」「どのように？」具体的で効果的な言葉掛け

受け止めてくれる安心感
「できた！」という自信

「**自己肯定感**」が高まる

「もっとやりたい！」意欲が育つ

主体的に活動に取り組もうとする

* このサイクルを繰り返すことが大切

いまの〇〇が
いいね！

〇〇が
すごいね！



できた！

もっと
やりたいな！



ぼくは
これでいいんだ！

次は〇〇に
挑戦しよう！

【R 3 自立活動年間指導計画の反省と改善】

＜教員アンケートより＞

○個別課題について

- ・ 教室内で取り出すことで、個別指導の時間を確保することができた。
- ・ 個別課題の学習内容について情報交換したい。

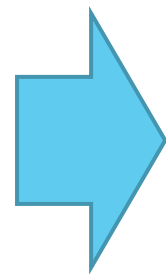
○グループ別指導について

- ・ ねらいを焦点化することができ、児童の変容も大きく評価しやすかった。
- ・ 教員間でねらいを共有する必要を感じた。

**2つの指導形態を継続
指導内容についてさらに研修を重ねる**

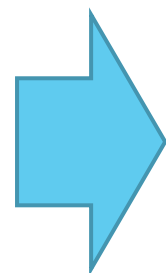
(5) 今後の課題

実態把握と目標の設定



「自立活動の中心的な課題の抽出」についての共通理解

「主体的な活動を促す指導内容と具体的な手立て」 3つの視点



授業改善の積み重ね

評価の在り方の検討

【研究主題 B】 中学部

学校課題

「各教科において身に付いた資質・能力の
定着を目指した生活単元学習の効果的な
指導と評価の在り方」

(1) 研究の主な内容

- ①新学習指導要領実施に向けた年間指導計画の作成
- ②「生活単元学習」の各単元の見直しと検討
 - ・各教科との関連の明確化・系統性・ねらいなど
- ③年計の確認（ねらい、学習内容、各教科の関連）
- ④各学年共通の単元「自然と生活」で授業を実践
→検討会
- ⑤新年計の実践→評価→改善

(2) 昨年度の取り組み

①新学習指導要領実施に向けた年間指導計画の作成

月	単元題材	時数	ねらい	主な学習活動・内容	他教科との 関連
4	新しい学校生活	13	【国思B2ア】 ・時間割表など教室掲示物の作成を通して、新しい生活の流れを理解する。 【国思A2イオ】 【社ア2(ア)ア】 ・自分の所属するグループを知り、新しい友達や教師に慣れる。(国数やグループ活動、作業学習の内容や担当者、学習場所、他学年の仲間や教師を知る。) ・一年間の行事を知り、見通しや目標をもって生活できるようにする。	・自己紹介カードの作成・掲示 ・下駄箱や更衣室、ロッカーの場所の確認と名札付け ・時間割・係活動・各種掲示板等の作成 ・昨年のグループ活動・作業学習の内容を振り返り、活動場所、内容等を確認する ・各所属を ・一	国語 数学 社会 理科 美術

三つの柱

- ・「知識・技能」
- ・「思考力・判断力・表現力
- ・「学びに向かう力、人間力」

この表記の仕方では、三つの柱のどこなのか分かりにくい。



【社 知2 社会参加】

月	単元題材	時数	ねらい	主な学習活動・内容	他教科との関連
4	*※◇▲ 新しい学校生活	12	○新年度の学習環境について確認をして、学習内容の大まかな見通しをもつことができる。 【社 知 2 きまり】 ・新しい学級や学年での決まりが必要であることを理解することができる。 【国 思 2 構成の検討】 ・学習場所やグループなどを確認して、必要な掲示物について構成や内容を考えて作成することができる。 【学 2】 ・一年間の行事を知り見通しや目標をもつことで、自ら関わろうとする意欲をもつことができる。	・学級写真撮影 ・自己紹介カードの作成・掲示 ・下駄箱や更衣室、ロッカーの場所の確認と名札付け ・時間割・係活動・各種掲示板等の作成 ・グループ活動・作業学習の活動場所、内容 ・各所属の確認 ・一年間の行事内容	国語 数学 時刻・時間 社会 集団生活 美術 表現

中心的な学習の
ねらい

三つの柱

- ・「知識・技能」
- ・「思考力・判断力・表現力」
- ・「学びに向かう力、人間力」

関連する学習内容

昨年度の成果

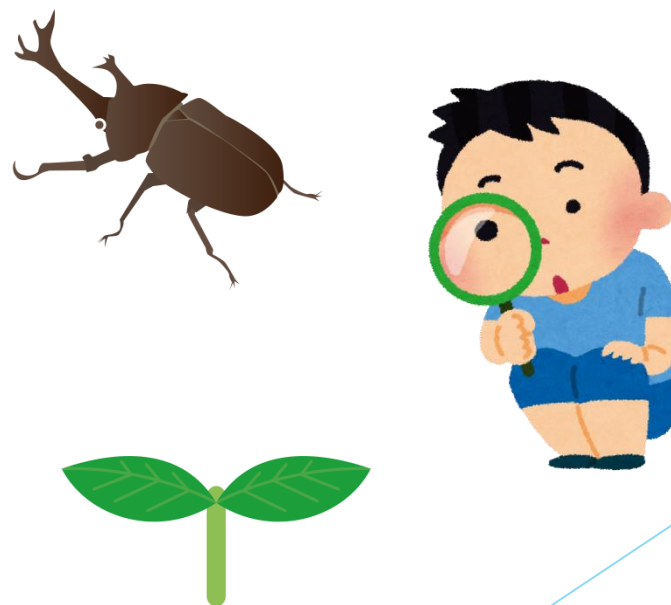
- ・「何を学ぶか」「何を身に付けるのか」教員一人一人が意識して年間指導計画を作成することができた。
- ・各教科との関連性、系統性（１～３年）を明確にすることができた。
- ・通年の単元「できることを増やそう」を設定
 - 学級の実態に合わせた学習（個に応じた指導）
 - 継続的、段階的な指導ができる。

(3) 今年度の取り組み

単元名「自然と生活」

▶ 各学年で育てる題材

- ▶ 1年生：草花
- ▶ 2年生：野菜
- ▶ 3年生：生き物



今年度の研究の主な取り組み

①各教科等との関連

②評価の工夫

①各教科等との関連

国語科

- 題材の設定
- 語彙
- 情報の整理

数学科

- 量・測定
- 表・グラフ

美術科

- 表現

理 科

- 生命
- 季節と生物

職業・
家庭科

- 情報機器の活用

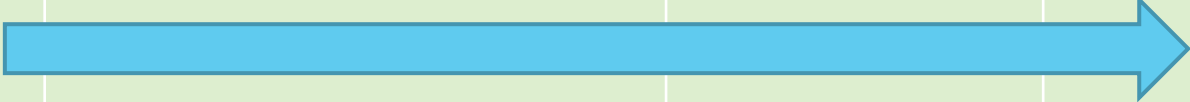
道 徳

- 自然愛護

合わせて

生活単元学習
自然と生活

①各教科等との関連 単元配列の工夫（中1）

	6月	7月	9月	10月
生単	「自然と生活」			
国語		「語彙」 「書くこと」		
数学		「データの活用」 表・グラフ		

生き物の観察＜数学：量・測定、表・グラフ＞



カブトムシ
の幼虫

重さを量る



長さを測る

生単のグラフを数学の学習へ



表やグラフを
数学科で学習

①各教科等との関連（数学）



数学

量・測定
表・グラフ

①各教科等との関連（国語）

国語「語彙」
栽培に関連する語句

反対語（高い⇔低い）
色を表す語（白、赤など）

各教科で身に付けた力を生かして
ワークシートを記入

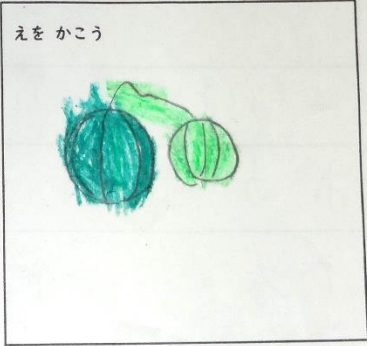
10月 8日 ふうせんかずらの かんさつきろく

1 年 1 組 名前

1 ふうせんかずらの 実 の えをかこう。

えをかこう





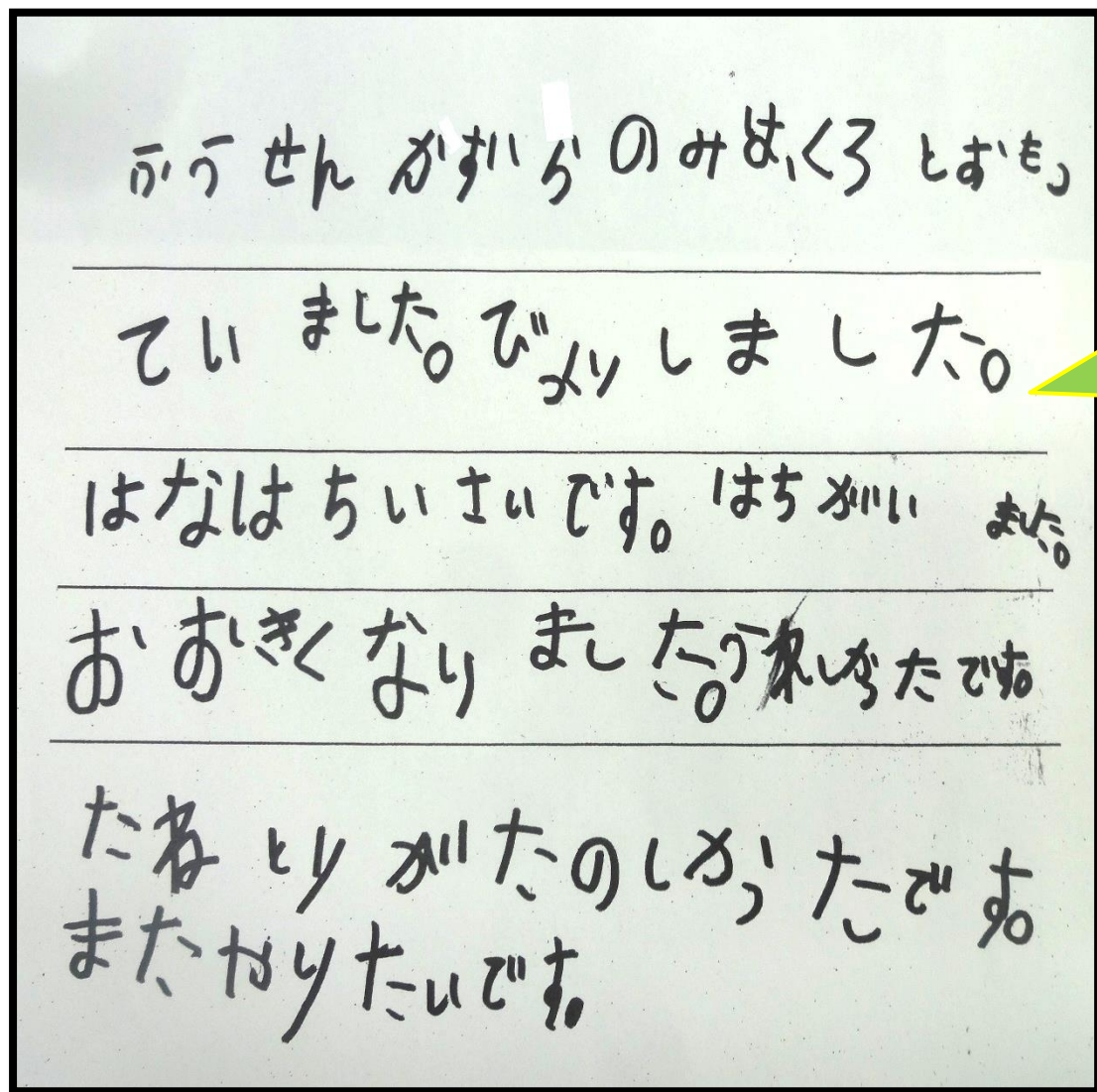
2 わかったこと

・ ふうせんかずらの ^せ 背の ^{たか} 高さは
たかくなった ・ ひくくなった

・ ふうせんかずらの ^{はな} 花は
しろい ・ あかい

・ ふうせんかずらの ^み 実の ^{なか} 中には
はながはっている ・ たねがはっている

①各教科等との関連（国語）

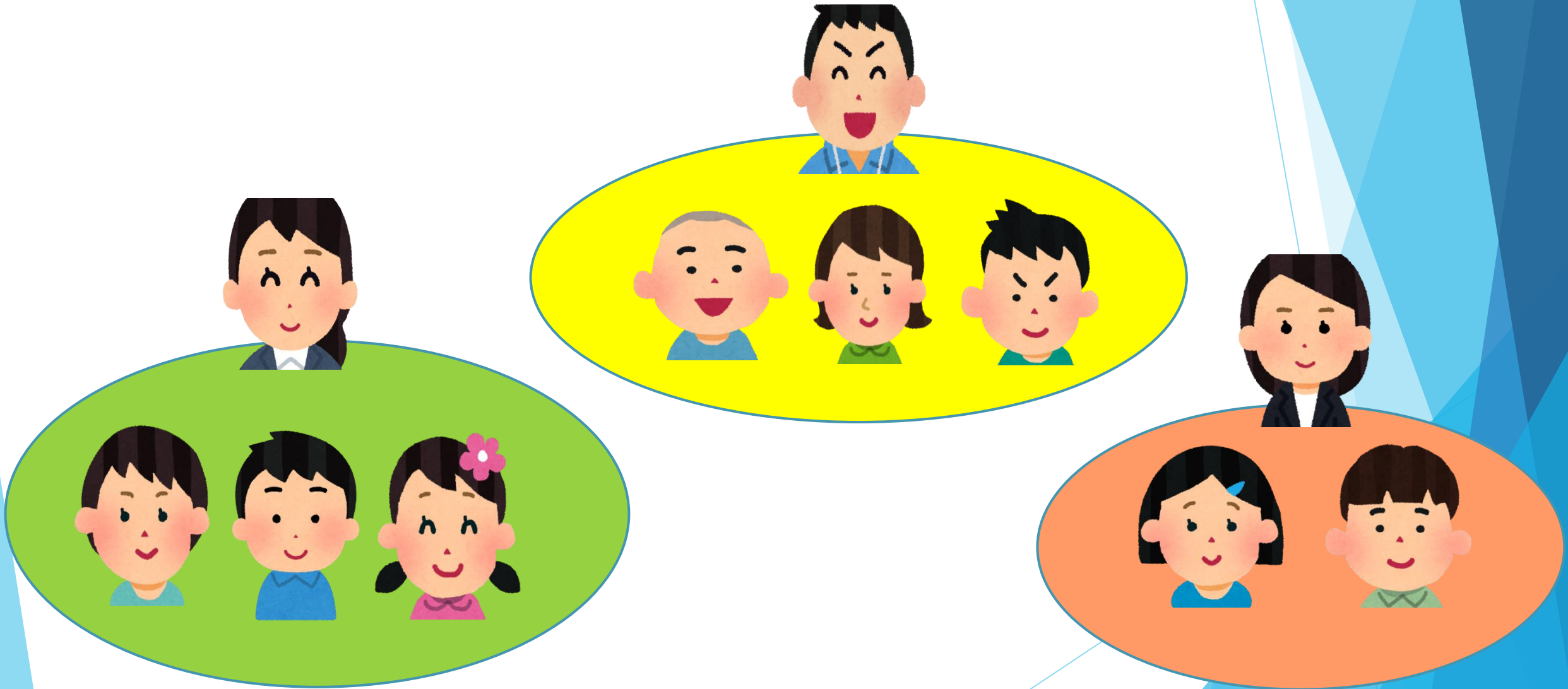


国語「書くこと」のねらい

○生育の様子や成長記録を自分なりの言葉で記録することができる。

観察して気付いたことを自由に書いている。

○実態に応じたワークシートを作成



②評価の工夫

「評価の在り方」の整理

○指導に生かす評価

- 授業の中で → 共感、賞賛
- 個々に応じた支援
- 資質能力

○記録に残す評価

- 指導の記録（生徒の達成状況や授業の様子 など）
- 授業改善
- 単元の反省

評価基準や方法の検討

- 基準：【知・技】 【思・判・表】 【学】
→ 実態に応じて（2～3段階） ～できる。 ～しようとする。
年計、単元題材指導計画とのリンク
- 方法：授業の様子から（意欲・関心・態度）
生徒がまとめた観察記録から（成果）

<評価シートの活用>

中心的なねらいである、観察の場面での活用



気付き（うまくいったこと、つまづいているところ）を活かす。

- * 授業改善
- * 手立ての工夫
- * ねらいや評価基準の見直し

<評価シート>

授業日： ／ ()		授業内容：		
評価基準：AかBは実態に応じて／3は全員共通				
A	1 背丈や葉の数など測定をして記録することができる。【知・技】 2 気付いたこと、成長の変化など伝えたい事柄を考え、大まかにまとめることができる。【思・判・表】			
B	1 教師と一緒に、測定や写真を撮るなどして観察することができる。【知・技】 2 友達や教師と一緒に、観察記録をまとめることができる。【思・判・表】 3 植物の成長に興味・関心をもつ。【学】			
本時の評価：(◎：十分達成 ○：達成 △：未達成)				
_____ (評価基準：) 1 2 3 	_____ (評価基準：) 1 2 3 	_____ (評価基準：) 1 2 3 	_____ (評価基準：) 1 2 3 	_____ (評価基準：) 1 2 3
本時の反省：				
次時に向けて（授業予定含む）：				

<評価シートの活用（振り返り）>

- 単元の中心的なねらいの共有
- 学習内容（活動）の検討
- 他教科との関連を意識
- 主体的に取り組むための 個々に応じた手立ての検討
- うまくいったことの考察

(4) 研究の成果

- 各教科等と生単の関連性が明確になり、指導内容への教師の意識が高まった。
- 生単と国語・数学の内容による結び付け
⇒机上で学んだことを生活で使える力に！
- 単元の中心的なねらいが共有され、生徒一人一人が目標達成するための手立てや学習活動の工夫を考えるきっかけに

(5) 今後に向けて

学習のねらいの明確化



指導者間で共通理解

実態に応じた教材の工夫



ひとりでできた！という
達成感
次の学習意欲につながる

他の単元にも実践を広げ、継続していく

【研究主題C】 高等部

学校課題

「社会的・職業的自立に向け、生きて働く力の育成を目指した指導内容と評価の工夫」

(1) 研究の主な内容

- 「職業科」の年間指導計画の見直し
- 「職業科」の指導内容及び方法の検討
→授業改善 実施→評価、改善

(2) 昨年度の取り組み

● 検討会の実施

- ・ 各学習グループごと
- ・ 各学年ごと

● 検討会の内容

- ・ 現在の状況と課題の確認
- ・ 各グループの生徒の実態から、
た重点目標や指導内容を検討

社会的・職業的自立に向け
→ 新年計の作成へ

検討会からみえた課題と改善策

- 学年によりグループの実態や人数に幅がある。ねらいがあいまいになっている。
- 企業就労に向けた学習が主である課程Ⅰから下ろしてきた現行の年間指導計画は、実態にあわないグループがある。



- ★目指す進路先を軸にした年計とグルーピングが必要
- ★各グループのねらいを明確にする
- ★ねらいをグループ内で共有する

新年計の作成に向けて

		Aグループ	Bグループ	Cグループ
目指す卒業後の進路先		就労継続支援A型 就労継続支援B型	就労継続支援B型	生活介護
考えられる 「身に付けた い力」	1年	- 自己理解力 - 衛生を整える力 - 働くための基本的な知識	1～3年を通して 身辺処理能力 (衛生面を中心に) コミュニケーション能力 社会人としての基本的な対応力 (金銭、時間、自分を知る等)	社会で求められる力を踏まえ、身に付けたい力を個に応じて設定する。 自立活動と関連づける - 人間関係の形成 - 心理的な安定 - コミュニケーション
	2年	- 働くために必要な力 (現場実習を通して) - 課題を改善しようとする力		
	3年	トラブルに対応する力		
次年度に向けた改善点		- 各学年の身に付けたい力に重点を置いて、現行の計画を見直す。 - 実際的な活動を多く取り入れる。	- 年間指導計画を1～3年共通としたベースを作成。身に付けたい力3項目を3年間繰り返し実施できるようにする。 - 学年により時間数、指導時期を検討。また、習熟度に応じ、内容をステップアップさせていく。 (単元題材計画に記載)	1～3学年を通した活動を取り入れる(主体的に取り組む姿を目指す)。 - 個に応じた目標を明確にした課題学習を通年で取り入れる。

(3) 今年度の取り組み

新年間指導計画の実践と検討会の実施

- 各グループで対象生徒を決定
- 生徒の課題と目標を確認
- 授業改善案の検討
- 授業実践と検討会の実施
- 実践の評価

【実践事例】

1年課程Ⅱ Bグループ

題材名「お金や時間の大切さ」

本時のねらい

- ①生活するためにお金が必要であることを知る。
(仕事をすることで賃金を得ることを知る)
- ②体験の中で感じたことを発表する。

授業改善のポイント

▶ 活動を分かりやすく

- 本時の学習内容、目標（めあて）を示す
- 同じ活動を同じ手順で繰り返す

▶ 実態に応じて教材を工夫

▶ 職業生活をイメージできるような活動

仕事をしてみたい！仕事って楽しい！
の気持ちを育てたい！

実践の様子



ねらいと
学習活動の確認

それぞれが自分の仕事に
取り組む



実態に応じた教材を
3種類用意



やった！



出来高に応じて
模擬硬貨で給料を支給

取り組みの成果

- ▶ 3時間の扱いで、同じ手順の活動を行ったことで、生徒が見通しをもち、**意欲的に**取り組めた。
- ▶ 本題材を扱う前、「働く」＝「給料」が結びついていない生徒が多くいることに驚いた。この題材の学習を通し、**「お金がもっとほしい！」「働きたい！」**という言葉が生徒から多く聞かれた。
- ▶ 「働く」ことへの関心の芽生え

【実践事例】

高等部2年 課程Ⅱ Cグループ
対象生徒：N.Y（高等部2年 男子）

実態

- ・発語はないが教師の簡単な言葉での指示を理解して行動することができる。
- ・これまでの経験で判断したり、周りの様子を見たりして行動することができる。
- ・自分の意に反したことがあると、自分の手を噛んだり、物を投げたりして怒りを表す。

学習のねらい（本生徒の目指す姿）

- 1 やりたい活動を選ぶことができる。
- 2 決められた役割、仕事を知り取り組むことができる。
- 3 落ち着いて活動に参加することができる。

工夫点

- ▶ 学習の流れを固定し、繰り返し行うことで見通しをもてるようにした。
- ▶ 絵、写真カードを活用して理解を深められるようにした。
- ▶ 生徒が担う仕事は分かりやすいものを設定した。また、1単位時間ごとに生徒が担う仕事を固定し、混乱しないようにした。

実践の様子

やりたい活動の選択



2枚の写真から1枚を選ぶ

係の仕事絵カードで確認



係の仕事の実施



(係仕事)の実施①

意欲的に仕事に取り組むYさん

取り組みの成果

- ▶ やりたい活動を選ぶ（意思表示）ことについては、今後も継続して学習が必要だが、2択であればどちらかを選ぶことができるようになってきた。
- ▶ 自分に与えられた仕事を理解してスムーズに取り組めるようになった。
- ▶ 友達の仕事の様子を見ることで、次回の授業で他の生徒も役割をスムーズに行えるようになってきた。
- ▶ 見通しをもっているため、落ち着いて学習に参加できるようになった。

(4) 研究の成果

「生きて働く力」とは...

- * 実際の生活の中で生かせる力
- * 生涯にわたって活用できる力
- * 卒業後の長い人生を豊かなものとする力

生徒が卒業後、どのような生活を送っていくのかを
考えながら、目標設定することが重要

「生きて働く力」の育成のために

★生徒の「学びたい！」を高めるために

▶ 生徒自身、保護者の願いをかたちに

生徒の願い（楽しみ）を育てる
→意欲を育てる

願いを達成するためには〇〇が必要だね △△をがんばろう！
プロセスを明確にする

▶ 将来へのイメージをもつ（小学部、中学部段階）

将来の夢、どんな生活を送りたいか、どんなことがしたいか

→ 実現のためには何が必要か → **自ら学び実現しようとする意欲**

▶ 将来の姿を具現化していく（高等部段階）

様々な体験を通した学び（実際に働く人を見る、話を聞く、現場実習等で体験する等）

→ 達成感 成就感 反省 課題 → **その体験を発展させ実現**

「生きて働く力」の育成のために

授業の工夫

- ▶ 生徒の将来を見据えたねらいの設定
分かっていることは何？
できるようになると、将来役立つよね
- ▶ 教師間でのねらいの共有
ここまでできたらいいい
- ▶ 見通しをもつこと、「できた！」の積み重ねの大切さ
「こうすればいいんだ！」「できた！」が主体性につながる。

(5) 今後の課題

▶ 指導と評価の一体化のために

例：児童生徒と目標の共有

学習評価場面の精選

評価基準、評価方法を教師同士で検討し明確化

児童生徒自身の自己評価の実施

できるところからはじめていこう

5 今後の研究について

【研究主題 A】 小学部 → 高等部

【研究主題 B】 中学部 → 小学部

【研究主題 C】 高等部 → 中学部

＊ 教育課程研究集会

令和4年8月 研究主題 B ・ 研究主題 C 発表
(令和2～3年度の2年間の研究を発表予定)

おわりに

チーム富屋で

子どもたちに笑顔を

